

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol. 7 園地・樹の状態を確認し、園地環境を改善しよう！

- ◎ さくらんぼの樹は、すでに来年の花芽をつくり始めています。
- ◎ 良い花芽をつくるために、適切な夏季管理を行いましょう！

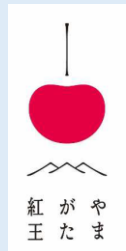
1 今年産さくらんぼを振り返る

- ◆ 村山地域では、春先に度重なる低温の日があったが、防霜対策や人工受粉の徹底などにより、ばらつきはあるものの、全般には平年並の結実を確保できた。
- ◆ 一方で、①6月3半旬頃（11～16日）の日照不足による「佐藤錦」前半の着色遅れ、②開花の進みが遅く、開花期間が長かったため、熟度がばらつき、収穫期後半には果肉の軟化が課題となった。

➔ **自園の反省点を明らかにし、次年度に向けて対応策を検討！**

【安定生産に向けた対応策】

- 防霜対策の実施：散水氷結法、燃焼法など
- 受粉樹の導入：複数品種を導入し、園地内の受粉樹の割合を高める
- 高品質果実生産対策：
 - ・着果管理（過着果では色がこない）、光環境（日当たり、風通し）の改善
 - ・計画的な労働力の確保
 - ・品種構成の検討（果肉の硬い「紅秀峰」「やまがた紅王」の割合を増やす）



2 次年度に向けて今やるべき管理について

良い花芽をつくるために・・・

- (1) 来年の貯蔵養分を確保する → **かん水・基肥**
- (2) 健全な葉を維持する → **病害虫防除の徹底**
- (3) 園地・樹の光環境を改善する → **縮間伐・夏季剪定**



現在の花芽の状況

(1) かん水・基肥

- ◆ **高温が続いています！土が乾いている園地では、かん水の実施を！**
特に、幼木は根域が浅く土壤乾燥により衰弱しやすいので、かん水を行うとともに、敷きわらやマルチを行い土壤水分の保持に努める。
- ◆ **基肥は、根が活動している9月上旬～中旬に施用**
 - ・ 礼肥で施用した年間施肥量の残りを施用し、貯蔵養分を十分に蓄えさせる。
 - ・ 樹勢が低下した樹には、完熟堆肥の施用が有効。

「やまがた紅王」の幼木も要確認

(2) 病害虫防除の徹底

- ◆ **ハダニ類 ⇒ 発生が多い園地が見られます！ 今年も高温・乾燥傾向なので**

注意！ ハダニ類が多発する前に殺ダニ剤を散布。

※高温乾燥時は、頻繁な草刈りを避け、草刈りする場合は高めに刈る

◆褐色せん孔病 ⇒ **発生が多い状況！ 落葉し始めた園地が見られます！**

発生状況に応じて、薬剤散布をさらに1～2回実施

◆カイガラムシ類 ⇒ ふ化が最盛期となる8月中旬に、幼虫を狙って薬剤散布

◆灰星病 ⇒ もぎ残しの果実がある園地が散見されます。もぎ残した果実は翌年の越冬伝染源になるため、適切に処分

(3) 縮間伐・夏季剪定 (光環境の改善)

◆ まずは、改善が必要かどうか、園地や樹の状況を確認しましょう！

◆ **始めに・・隣同士の樹の枝が重なっていたら ⇒ 縮伐・間伐**

→ 「永久樹 (優先する樹)」を決め、そうでない樹を縮間伐

◆ 次に・・樹冠内部が暗い樹、特に樹勢が強い樹では ⇒ 夏季剪定

【夏季剪定の注意点】 必須作業ではありません

・ 樹勢が適正な樹・弱い樹、十分明るい園地・樹では行わない。

・ 剪定は最小限に！ノコギリを主体とした間引き中心の大枝整理のみとする。

・ 気温が高い時期に行うと、枝の日焼けや双子果の発生を助長する可能性があるため、8月下旬以降に行う。

縮間伐や夏季剪定の必要がない園地・樹



- ・ 樹冠内部にもチラチラ光が差し込んでいる園地
- ・ 隣接樹との余裕がある園地
- ・ 樹勢が適正～弱い樹

縮間伐や夏季剪定が必要な園地・樹



- ・ 樹冠下に光が届かない園地・樹
- ・ 大枝が多く、樹冠内部が暗い樹
- ・ 樹の上部が大きく、下部の日当たりが悪い樹
- ・ 樹勢が強い樹 (強勢な枝や徒長枝の発生が多い樹)

熱中症に十分注意！こまめに休憩と水分補給を行いましょ！

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課
TEL:023-621-8291 TEL:0237-86-8215 TEL:0237-47-8631
山形さくらんぼブランド力強化推進協議会(事務局:農林水産部園芸大国推進課・農業技術環境課)